

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和2年度中間評価結果

大 学 名	金沢大学
整 理 番 号	B05
構 想 名	徹底した国際化による、グローバル社会を牽引する人材育成と金沢大学ブランドの確立

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価) <b style="font-size: 2em;">A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント) <p>本構想は、独自の金沢大学<グローバル>スタンダード (KUGS) を設け、専門知識に加え高次な国際感覚と倫理観を有し、国際通用性を備えた人材育成を実現するものである。研究大学としてのブランドの向上についても、人事制度を戦略的に活用し国際的に優秀な研究者の獲得に繋げるなど、多側面における大学の改革の進捗が停滞することなく進められている。構想の数々の取組を推進するにあたり、その前提となる学長のリーダーシップとガバナンス改革により、これらの成果をもたらすことができている。在籍学生および教職員の英語力の向上を図る取組については、タフツ大学のノウハウの伝授を経て、直近の数年において独自の英語強化プログラムの開発を行い、継続的に改善を行うほか、財政支援期間終了後を見据えた自走化を推し進めている点も評価できる。</p> <p>本構想は、あえて高い目標数値を各取組に設定している。学生の流動性や留学生の受け入れを促進する環境整備（クォーター制の導入、英語開講コースの拡充等）の強化の推進の様子からも、執行部を中心に前向きにその達成に取り組んでいる大学の姿勢は一定評価できる。</p> <p>その一方で、教職員の国際化、全学生に占める外国人留学生の割合、大学間協定に基づく派遣日本人学生数、学生の外国語力基準（TOEIC760/TOEFL-iBT80 点相当）に達成する学生数など、目標値と実績値の開きがやや顕著である項目が散見されるため、今後の更なる尽力に強く期待したい。</p> <p>また、海外インターンシップ・ボランティアや、ELP センター主催の英語研修、海外大学との共同学位プログラムを始めとした学生対象の多種の取組の中には、十分に学内において浸透していないものも一部あるように見受けられる。学生への周知を強化し、学生が自分のキャリア形成における関連性・意義をよく理解し、幅広い層が積極的に参加するグローバル人材育成プログラムの確立に向けた活動を継続的に進めてもらいたい。</p>	